

中学校第 2 学年 道徳学習指導案

日 時 平成 28 年 10 月 4 日 (火) 2 校時
 指導者 教育センター所員 福本 朝子

- 1 主題名 よりよいクラスをつくる【内容項目 C- (15) よりよい学校生活、集団生活の充実】
 2 教材名 「クラスの痛み (朗読劇)」 (出典『中学道徳② きみがいちばんひかるとき』光村図書)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

文部科学省の調査によると、いじめの認知件数は小学校高学年から増加し始め、中学校 1、2 年生でピークを迎える。いじめのないクラスをつくるためには、生徒たちに、いじめが起こる人間関係の特徴や心理的な構造 (加害者、被害者、傍観者) に気付かせ、クラスが集団として成長する過程を意識させることが重要である。生徒にとってクラスは、学校生活の大半を過ごす大切な場である。この学習を通して、生徒一人一人が互いに意見を出して話し合い、自分にできることを判断し、行動できるようにすることは大変意義深いと考える。

○生徒の実態について

中学生の時期は、友達間でもからかいや冷やかしかが見られる。また、友達が悪いことをしていても見て見ぬ振りや、悪いと認識しながらも一緒に行動することがある。本学級の 88% の生徒は「先生や学校にいる人のことを大切に思い、よりよい学級や学校生活をつくるために、自分にできることをしているか」という質問に肯定的に答えている。具体的に自分の役割について「自分の係は休まずにしている」と回答した生徒がいた一方、「何をしたらよいか分からない」と回答した生徒もいた。更に多くの生徒が、よりよいクラスをつくるために貢献できるようにしたい。

○教材について

本教材は、主人公で学級委員の「洋子」、いじめをする「鉄也」、いじめを受ける「幸次」の 3 人を中心として、傍観者の「直美」や「博司」が登場する台詞で構成された朗読劇である。読み手は、登場人物の心情を理解しながら、クラスを舞台にしたいじめの人間関係の特徴や心理的な構造に気付くことができる。また、不登校になった幸次について話し合う学級活動の時間に、直美や博司の傍観者の立場からの提案に対し、加害者の鉄也の本音が語られる。いじめをめぐるクラスの問題に対して生徒たちはどのように向き合っていくのか、この先の展開について考えを思い巡らすことで、クラスの問題解決について考えを深め、自分自身のクラスでの役割を自覚することができる教材である。

○指導について

指導に当たっては、導入で正義感に関する事前調査の結果を紹介し、いじめへと話をつなげ、本時のめあてを提示する。展開前段では、「クラスの痛みとは何か」を問うことで、いじめの構造を生徒の意見からまとめる。展開後段では、鉄也の「おまえらはいつ幸次に声を掛けたんだよ」という本音に対し、いじめを傍観してきた博司と直美の立場から、どう答えるか個人で書かせることで自分を見つめさせる。次に、鉄也に対する台詞について班で考えを話し合わせることで、問題解決について多面的・多角的に考えさせる。終末では、自分たちで考えた台詞を鉄也に言えるかどうかを判断させる。「はい」「いいえ」どちらを選んでも、これから具体的にすることを生徒に問うことで、道徳的実践につなげていくことができると考える。

4 ねらい

いじめがあるクラスの人間関係の問題に気づき、クラスの問題解決に必要な道徳的判断力と実践への態度を養う。

5 指導の視点

道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合うことができていたか。

- ア 自己を見つめることができていたか。【書く活動①】
 イ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができていたか。【話し合い】
 ウ 人間としての生き方について考えを深めることができていたか。【書く活動②】

6 展開

	学習活動	主な発問 (○) と予想される反応 (・)	指導上の留意点 <small>期待される生徒の変化 (教師の願い)</small>
導 入 ／	1 前時の授業を振り返り、事前調査の結果を知る。	○前の授業で、友情と責任について考えたことを覚えていますか。 ○「私たちの道徳」のp.162のグラフです。なぜ、だんだんと止められなくなるのでしょうか。 ・自分が嫌われるかもしれない。 ・面倒くさく感じる。 ・嫌がらせをされる。	・前時に人間関係について扱ったことを思い出させ、本時の教材へと話をつなげる。 ・友達が悪いことをしたときに、なぜ止められないのかを尋ねた事前調査の結果を紹介し、傍観者の視点からいじめの問題を考えさせるための導入とする。
	2 朗読劇を観て、洋子のクラスの痛みについて考える。	○博司と直美はどんなことを考えたでしょう。 ・洋子の言うとおりで、いじめはよくない。 ・そんなこと言ったら、鉄也が怒ると思う。 ○このクラスの痛みとは何でしょう。 ・いじめ ・不登校 ○加害者は誰ですか。被害者は誰ですか。 ・加害者は鉄也 ・幸次は被害者 ○クラスの痛みはこれだけですか。	・朗読劇になっている資料のよさを生かすために、電子黒板で朗読を流す。 ・朗読を流す前に、ワークシートを配付し、登場人物の名前を確認しておく。 ・p.94の洋子の発言「みんなも…そう思うでしょう」で一旦停止し、この場面で博司や直美が感じたことを考えさせる。
展 開 ／	3 自分を見つめる。 ・自分の考えを書く。 【書く活動①】 ↓ ・班で考えを交流する。 【話合い】 ↓ ・全体で話合いの内容を共有する。	○鉄也の発言に、あなたが博司や直美だったらどう答えますか。 ・いじめていたのに、私たちのせいにするなんて。 ・いじめをしている鉄也が悪い。 ・そのとおりでと思う。 ○各班で、1つずつ台詞を考えましょう。 ・幸次が嫌がることをしていたことは、鉄也は直したほうがいい。 ・何もしていなかった自分たちを反省したい。 ・声を掛けなかった人も悪いし、いじめた人も悪いと思うから、クラスみんなで幸次を迎えに行こう。	・板書に登場人物を整理し、人間関係を構造化する。 ・加害者、被害者だけでなく、傍観者についても問題があることを押さえる。 学級全体がいじめに関係している「いじめの構造」に気付くことができる。
	4 自分考えを深める。 【書く活動②】	○考えた台詞を鉄也に言えますか。 【言える】→○どんな台詞を言いますか。 ・自分たちも悪かったと思う。 ・鉄也と一緒に幸次が来られるよう、できることを考えよう。 【言えない】→○できることを書きましょう。 ・幸次と仲良くなれるよう、家に行ってみる。 ・色々なことで、他人事と思わず、クラスの人ともっと仲良くしていく。	・p.98の鉄也の発言に対し、はじめに個人で考える時間を取ることで、自分を見つめさせる。 ・次に4人班で、自分の考えを紹介させる。 ・その後、傍観者の立場で、鉄也に対してどのように答えるか、台詞を考えさせる。 ・班ごと1つの発言をホワイトボードに書かせ、黒板に掲示する。 ・出た意見を「鉄也が悪い」「自分たちが反省したい」等、KJ法でまとめ、全体で話合いの内容を振り返る。 意見交流によって、多面的・多角的に問題解決について考えることができる。
終 末 ／		○クラスの問題にこれからどう向き合いたいと思いますか。 ・クラスの一員として、悪いことは悪いと言う。 ・一人だけでは解決できないことも、みんなで協力して解決していきたい。	・自分の立場にネームプレートを貼らせる。どちらを選ぶかに正解はないことを伝え、選んだ立場で、これからどうするかを書かせる。 自分のとる行動を判断し、具体的にどのようにするか書くことができる。
			・学習のめあてを再確認し、振り返らせる。 クラスの問題に対して、無関心ではなく、クラスの一員として、自分のできることを考え、どのように行動するか、自分の言葉で書くことができる。

